

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	SEDスクール学研奈良登美ヶ丘			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 15日		～	2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数)	50
○従業者評価実施期間	2025年 10月 15日		～	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育と集団療育（6名までの少人数）・親子教室を併用することが可能。お子様一人ひとりの発達段階に合ったグループを選択することが可能であり、集団生活の中で楽しく過ごせるための力をお子様同士や信頼できる大人との係わりの中で育むことができる。	ご利用くださるすべてのお子様1：1の指導員との丁寧な係わりだけでなく、お子様同士の係わりの中で育つ経験ができるよう、10のグループ分けとグループデビューや就園を目標にした親子教室を設定している。2スクールの時間割をずらすことで、お互いの療育を見学し合うことが可能になり、意見交換をしたりしながら学びを深めている。	引き続き、一人ひとりのお子様の目標に合ったグループ編成や取り組みができるよう、チーム療育に尽力していく。
2	2つのスクールを隣り合わせて運営しているため、お互いに助け合える環境にある。遊具や教材も貸し借りがしやすく、支援内容も選択肢が広がり、充実している。月2回のスクール内研修において、セッション内容や個人で受講した研修の情報交換を行い、お互いに活かすことができる。また、ヒヤリハット報告等を共有する事で、安全面への配慮強化ができる。	全職員で話し合える機会を月2回設定し、共通伝達、社内研修、社外研修などの情報共有や学びを深めている。職員数が多いことから、スクール内の役割分担（係り）を決め、各スクールから1人ずつ選抜することで足並みの揃った2スクール間の運営ができています。また、ヒヤリハットや軽傷等は早急に伝達を行い、安全面への意識強化に努めている。	引き続き、意見交換がより一層活発になるよう、話し合いの時間を確保すると共に、意見が出しあえる風通しの良い職場にしていける。
3	様々な資格、経験の職員が協働しているため、多方面からの視点でお子様の見立てや係わりできる。また、全国にあるSEDスクールが参加し、顧問の教授達から専門的なアドバイスをいただける勉強会やスクール間の情報交換も積極的に行っているため、支援内容の幅が広がり、知識を深めることができる。	任意の研修会、勉強会においてSEDスクールの理念である『みんなが育つ、みんなで育つ』への意識が強く、時間の許す限り全職員が積極的に参加している。他のSEDスクールともiPadを使用し、情報交換をする中で支援への視点、視野を広げることが大切にしている。	社内及び社外研修の機会をスクール内で情報共有し、できる限り研修時間を捻出できるように調整していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	2スクールの職員数が多く、勤務時間や出勤日数などの勤務条件が異なるため、漏れなく情報共有を行うことへの難しさがある。	勤務時間や出勤日数が異なるため、情報共有をする時間が限られているため。	職員室のホワイトボードに伝言を記入したり、回覧をしたりと出勤時には確認できるようにしている。ご利用者様の情報については常に最優先で把握する事が大切であるとする。
2	駅構内の為、駅を利用される多くの方が玄関前を通行のため、自動扉が閉まりづらい時間帯がある。また、ゴミの投棄やインターホンをつたずらに押されることが頻発している。	駅構内であることとバスターミナルがあることで、多くの人々が集まる立地であること。	自動扉の開閉においては、安全確保のため玄関前に職員が待機し閉まったことを確認する。ゴミの投棄においては、気付いた時に処理を行い、常にきれいな状態を保つようにする。インターホンのいたずらは、張り紙をし、注意喚起を行う。
3	個別療育の時間が短いため時間をかけてじっくり係われない。	1対1の個別療育という特性上、長時間の支援提供が難しいため。	ご利用者様が集中しやすい時間で最大限の係りを持つことができるように、プログラム内容も職員皆で検討していくと同時に、効果的な支援を行うことができるように社内外の研修に積極的に参加し、支援に関する学びを深めていく。